

## 四万十川沿いの石垣と水田

四万十川沿いをドライブしていると、川沿いの山の斜面に石垣で築いた棚田や段々畑の美しい風景に出会えます。最近、棚田は美味しい米を作る生産の場としての役割のほかに、生態系に果たす役割、景観の文化的な価値などにも光が当てられています。そんな中で、国の文化的景観に選ばれた、十和村の石垣と水田について紹介します。

今年6月、文化庁の検討委員会では、農山村などの生活に根ざした美しい風景を守ろうと、「農林水産業に関連する文化的景観」を、「きわめて地域色が豊かで身近な存在。日本人のふるさとや心の原風景にも通じる文化遺産」と位置づけ、全国から180の重要地域を選定し、保護と保存などを提言しました。

県内では5つの地域が選ばれ、そのうち水田風景の分野で四万十川源流域・梶原町の『神在居(かんざいこ)の千枚田』が、また、土地利用や伝統的産業・生活などの複合景観の分野で『四万十川』が選ばれました。

十和村の石垣と水田は、「伝統的な漁業、農業、集落及び祭り等が、美しい四万十川を背景として一連の景観を形成している」として評価された『四万十川』の複合景観の一つとして選ばれました。ほかに、沈下橋と秋祭り(西土佐村)、四万十川源流一本橋(東津野村)、鮎漁・火振り漁(窪川町)、落ち鮎漁・ゴリ漁(中村市)が選ばれています。

十和村は面積の9割以上を山林が占め、平地はわずかしかなりません。石垣は、この険しい山峡に少しでも耕地を増やそうと先人たちが自然と共生しながら築き上げた知恵の結晶で、小野地区の水田や広井地区の茶畑など、昔ながらの石垣の風景が村内の至る所に残されています。

中でも県内有数の茶どころでもある広井地区では、ここで手摘みされたお茶を商品化(しまんと緑茶など)し、売上の一部を茶畑の管理費用に充てるなど、段々畑の保全に集落ぐるみで取り組んでいます。

●しまんと緑茶 広井茶生産組合

TEL.0880-28-5527



▲十和村の石垣と棚田

### Topics

#### 四万十川の鮎を中心とした、CD付き写真集「あゆ」

『あゆ』と題された本は、高知県出身で現在大阪府在住の高野弘さんが昨年発行した“ミュージック・フォト・ブック”です。鮎の一生を追った写真だけでなく、オリジナル曲『四万十川のほとり』など3曲収録CD付き。世界最大の本の見本市『フランクフルト・ブック・フェア』に今年10月出展し、多くの好評を得て、ドイツの出版社でも出版される予定です。

●詳しくは URL <http://www.takanohiroshi.com>